

【図3】「浦日記」天保14年2月17日条(毛利家文庫71藩臣日記2 (62の14))

自然現象②

彗星・流星・日食と文書館資料(2)

《3. 「浦日記」》

「浦日記」(毛利家文庫71藩臣日記2)は、萩藩寄組土浦鞆負(ゆきえ)が文政8～明治3年(1825～70)に書き記した日記です(全62冊)。鞆負は当職・当役など萩藩重職を務めた人物で、その日記は幕末政治史を解明する上での重要史料として知られています。

この日記には天文現象に関する記事も多く含まれています。特徴的なのは、日食に関する記事が7つもあることです。最初の記事は天保13年(1842)6月2日条で、前日の日食につき「昨日七ツ過、日食七歩半之事」と記しています。また、同14年11月1日条、嘉永2年(1849)2月1日条、同3年7月1日条、同5年11月1日条、安政3年(1856)9月1日条、文久元年(1861)6月1日条にも記事があります。日食が始まった時刻、太陽がもっとも大きく欠けた時刻、日食が終わった時刻、日食の程度などを記録しています。当館

所蔵資料でこれだけ日食記事がまとまって残るのは「浦日記」だけでしょう。

彗星記事は1つだけあります。文久元年5月25日条に、「頃日暮時分北之方江星壹ツ出、大サ大白星ノ太ク白輝を中空へ射、暁方東方へ廻り候事」とあります。暮時北の空に大きく輝く星、これはテバット彗星と呼ばれる彗星です。

天保14年2月17日条には、夜、西方に雲のような「白気」が見えたといい、【図3】を描いています。ただし鞆負は、「いかなる理由による現象だろうか、珍しいことでもない」とも記しています。

《4. 「有武日記」》

山口五社の一つ、多賀社の大宮司高橋有武の日記です。文政6年(1823)から天保10年(1839)まで12冊が残ります(多賀社文庫1202-1～1203-6)。この日記にも彗星関係の記事が6つみえます。文政8年(1825)8月21日条、天保2年(1831)1月条、同4年5月、6月、7



『岩邑年代記』

岩国藩の年代記「岩邑年代記」には慶長5年(1600)から文久2年(1862)までの記事が収録されています。この中にも天文現象に関する記事がみえます。もっとも早い記事は、延宝8年(1680)、「十月十五日珍星出る」とあるものです。17世紀後半の記事として注目されます。岩国徴古館から『岩邑年代記』(一)～(十)が翻刻出版されています。

月条、同10年7月条です。その中には、「是を一説ニハ兜星とも申候、いつれ軍事出来可申杯と申候、肥後と薩摩と出入有之、軍ニ成杯と申候」(天保4年5月条)とか、「此内以昼之日中より星之見へ候ハ六月朔日を見へ、豊年星ニ而有之候」(同10年7月条)など、彗星の出現を戦乱や吉事と関連づけた記述がみえるのも特徴的です。

《5. 渡辺諄「日記」》

江戸時代、萩藩士(無給通・身柄一代遠近付)であった渡辺新七(諄)は、嘉永4年(1851)から明治28年(1895)までの日記44冊を残しています(隅家文書1~44)。居宅は熊毛宰判塩田村(現光市塩田)にありましたが、勤務のため萩・山口に居住する期間も長く、また世子毛利元徳の御供を命じられ、江戸、京、大坂に出向くこともありました。

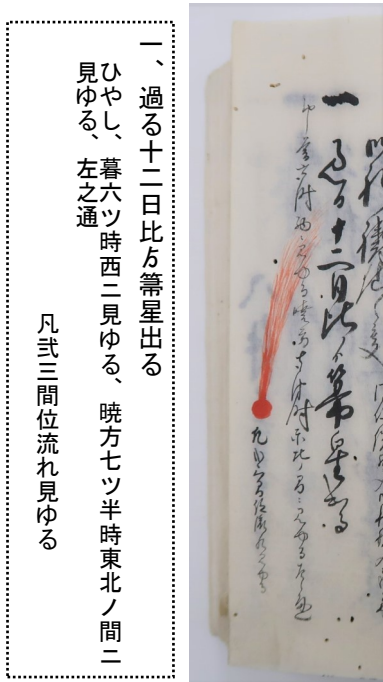
幕末期の日記から、3ヶ所、彗星に関する記事を発見できました。注目すべきは、そのいずれにも彗星の図が描かれている点です(下写真参照)。

安政5年(1858)8月、参勤交代に従い江戸滞在中であった新七は、同地でドナチ彗星を見ました。15日条に「過る十二日比方彗星出る ひやし、暮六ツ時西二見ゆる、暁方七ツ半時東北ノ間二見ゆる」と記し、【図4】を描き、「凡式三間位流れ見ゆる」と注記しています。

文久元年(1861)5月26日条には在所塩田村でテバット彗星を眼にしたようすが記されています。「一昨廿四夜方戌亥之方二当り彗星見ゆる、午年之彗星と違ひ尾引余程長し、暮六ツ時方見ゆる」とあり、彗星がどの方向にいつごろから見えたとかを記すとともに、「午年之彗星」すなわち安政5年のドナチ彗星と比べて、今回の彗星の方が尾が長いという違いも指摘しています。【図5】を描き、「外ノ星と違ひ、光少し、尾ハさき程薄し」と注記しています。

翌2年8月5日条にも彗星の記事があります。当時新七は世子元徳に随従し江戸に向かう途上であり、4日は伊勢国石部宿(現三重県四日市市)、5日は関宿(同亀山市関)、6日は桑名宿(同桑名市)辺りを通行中でした。このころスイフト・タトル彗星を眼にしました。「此間方暮六時戌亥之方二当り彗星見ゆる」と記し、【図6】を描くとともに、「戌亥ノ方暮六時過見ゆる、如此尾を引く」と注記しています。

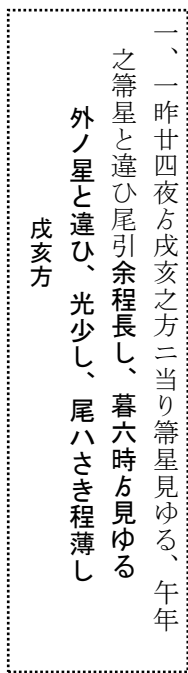
新七は、幕末の5年間に3つの彗星を見ました。時代が大きく変わろうとする中、彼は彗星出現にどのような感情を抱いたのでしょうか。



一、過る十二日比方彗星出る
ひやし、暮六ツ時西二見ゆる、
暁方七ツ半時東北ノ間二
見ゆる、左之通

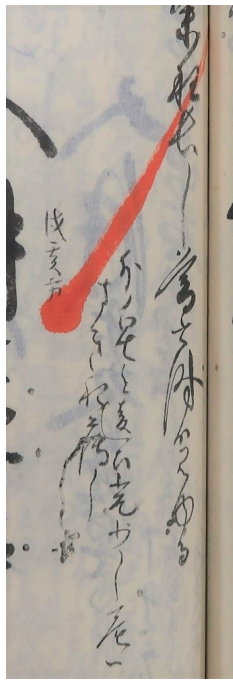
凡式三間位流れ見ゆる

渡辺諄「日記」【図4】安政5年8月15日条



一、一昨廿四夜方戌亥之方二当り彗星見ゆる、午年
之彗星と違ひ尾引余程長し、暮六時方見ゆる
外ノ星と違ひ、光少し、尾ハさき程薄し
戌亥方

【図5】文久元年5月26日条



一、此間方暮六時戌亥之方二当り彗星見ゆる
戌亥ノ方暮六時過見ゆる、如此尾を引

【図6】文久2年8月5日条

*ゴシックが写真部分の積文